



答えは 13 ページに

議会だより

第44号

もくじ

12 月定例会	12	一般質問.....	14
条例などの審議結果.....	12	議員活動報告.....	17
各会計補正予算.....	13	編集後記.....	21

令和6年第4回定例会が12月10日に開催され、人事案件3件、条例改正5件、新規条例の制定2件、令和6年度各会計補正予算5件などが提案され、慎重に審議した結果、それぞれ原案どおり決定した。



○条例などの審議結果（補正予算を除く）

議案番号	条 例 等	条例等の主な内容	審査の結果
議案 第1号	専決処分事項の承認を求めることについて（令和6年度水上村一般会計補正予算（第6号））	衆議院議員選挙に伴う予算の専決処分の承認	承認 （全員賛成）
議案 第2号	水上村固定資産評価審査委員会委員の選任同意	古屋敷地区 椎葉 順二氏を選任	同意 （全員賛成）
議案 第3号	水上村教育委員会委員の選任同意	幸野地区 五家 一久氏を選任	同意 （全員賛成）
議案 第4号	水上村教育委員会委員の選任同意	岩野覚井地区 山田 舞子氏を選任	同意 （全員賛成）
議案 第5号	水上村議会議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定	議会議員の期末手当に係る支給割合を改正	可決 （全員賛成）
議案 第6号	水上村長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定	村長等の期末手当に係る支給割合を改正	可決 （全員賛成）
議案 第7号	水上村一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定	一般職員の期末勤勉手当に係る支給割合及び給料表を改正	可決 （全員賛成）
議案 第8号	水上村会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定	会計年度任用職員の期末勤勉手当に係る支給割合及び給料表を改正	可決 （全員賛成）
議案 第9号	水上村下水道条例の一部を改正する条例の制定	上位法の改正による条例改正	可決 （全員賛成）
議案 第10号	水上村産業推進施設設置条例の制定	J A くまから購入した旧茶工場等を産業推進施設として設置	可決 （全員賛成）
議案 第11号	水上村集いの施設設置条例の制定	J A くまから購入した旧水上店及び付属倉庫を集いの施設として設置	可決 （全員賛成）
議案 第12号	熊本県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更及び規約の一部変更	交通災害見舞金に関する事務からの脱退（山鹿市）	可決 （全員賛成）
議案 第13号	財産の取得について	J A くまから 700 万円以上の不動産を買入れ	可決 （全員賛成）
	継続審査申出書		可決 （全員賛成）

○各会計補正予算

令和6年度水上村一般会計 補正予算(第7号)

歳入歳出予算の総額に1億1,420万円を追加し、総額を**52億3,010万円**とするもの。
ふるさと応援基金積立金(企業版)1,120万円、
岩野地区村有住宅(旧坂本邸)整備工事400
万円、中高年就農初期投資支援事業補助金
249万9千円、水上村お得〜ぽん事業補助金
500万円、災害復旧費4,250万円などの事業
が追加計上された。

令和6年度水上村簡易水道事業 会計補正予算(第2号)

収益的収入及び支出の予定額の総額
に47万円を追加し、収益的収入の総額
を**6,858万4千円**、収益的支出の総額を
8,850万3千円とするもの。

令和6年度水上村国民健康保険 特別会計(直診勘定)補正予算(第2号)

歳入歳出予算の総額に25万9千円を追加
し、総額を**948万2千円**とするもの。

令和6年度水上村介護保険 特別会計補正予算(第2号)

歳入歳出予算の総額に2,159万5千円を
追加し、総額を**4億5,103万8千円**とするも
の。施設介護サービス給付費負担金2,000
万円などが追加計上された。

令和6年度水上村下水道事業会計 補正予算(第1号)

収益的収入及び支出の予定額の総額に
200万円を追加し、総額を**1億502万3千
円**とするもの。

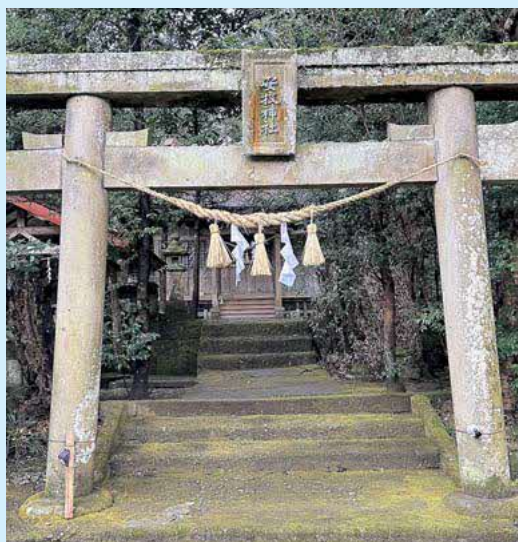
いずれも審議の結果、原案のとおり決定した。



「表紙の写真の答え：安牧神社」

水上学園の東南にひっそりと佇む安牧神社は、
五木村の地頭であった土屋平兵衛氏により創建さ
れた。本来は牧場を経営されており、「牧場が安ら
かであるように」との願いを込め、小さなほこらを
作ったのが始まりといわれている。

現在の神楽殿は昭和37年に作られている。御祭
神は大宜都比売神(おおげつひめのかみ)で、日本
神話に登場する農業の神である。以前は農家で牛
馬が多く飼われていたが、現在は機械化が進み参
拝者も減少している。土屋宮司の頑張りで一昨年
から祭りが復活し、12月1日には改めて神楽が奉
納されるようになった。



村の現状！今後の見通しは！！

一般質問

Q. 部活動地域移行のゆくえは

A. 土・日は社会体育へ移行する計画



杉野 久志 議員

問 水上学園後期課程の部活動の現状は。

答 教育課長

7年生、8年生、合計39名中30名が学校部活動に加入し、9名が水上村元気クラブまたはクラブチーム等に参加している。団体競技で出場する種目は、ほかの学校と合同チームを編成し試合に出場している。

問 部活動の地域移行について、教職員と外部指導者の意見は。

答 教育課長

教職員へのアンケートの結果、部活動の指導について「負担に感じている」が約9割。理由として「活動日数が多く、土曜、日曜の対応もあり、専門的な指導が難しい」となっている。休日の部活動の社会体育移行について「賛成」が9割。理由として「生徒の減少」「休日は家庭に時間を使いたい」「業務量軽減」などが挙げられている。また、社会体育の代表者の意見として「指導者の確保」「広域で行わなければ移行しても改善できない」「平日放課後の対応」などが挙げられている。

問 地域移行に関する検討委員会の検討経過、また保護者や受け皿となる地域クラブへの説明は。

答 教育課長

令和5年度で2回、6年度で1回検討委員会を開催しており、今後の方向性など意見聴取を実施している。アンケート調査の意見、検討委員会での意見等を踏まえて、2月中に村の部活動地域移行推進計画を策定し、3月には児童、生徒、元気クラブ指導者への説明会を行っていく。

まずは休日（土・日）の地域移行について、令和7年度は月に1回から2回、令和8年度は完全に移行する計画としている。

意見

本村は熊本県の推進計画どおり進めるのか、村独自の推進計画を作るのか、様々な事例を協議し、保護者、関係者にも十分な説明をするなど、生徒たちにとってよりよい方向性を検討していただきたい。

水上学園7年生（23人）・8年生（16人）計39名の所属状況

	競技名	部員数	コーチ数		競技名	所属数	所属先
学校部活動	野球部	6	1	クラブチーム（地域）	野球	3	村外クラブチーム
	ソフトボール部	4	1		ランニング	3	水上元気クラブ
	ソフトテニス部	11	1		バドミントン	3	水上元気クラブ
	陸上部	7	0		サッカー	1	村外クラブチーム
	柔道部	2	1		未加入	1	
	小計	30	4		小計	9	

Q. 「第6次水上村総合計画」で 目指す本村の将来の姿は

**A. 安全に安心して暮らす
ことができ、活力と魅力
ある地域社会の実現**



杉野 貴文 議員

問 「第5次水上村総合計画」が令和7年3月末をもって計画期間が満了する。これまで第5次にわたり水上村の今後の10年間の「基本構想」が掲げられ、その構想に従い「基本計画」「実施計画」が定められ様々な施策が展開されてきたが、これまでに振り返り検証したことは。

これまで以上に村、住民、地域の公的機関の相互連携により、きめ細かな行政サービスを効率的に提供し、将来にわたり安全に安心して暮らすことができ、活力と魅力ある地域社会の実現を図る指針としたい。

答 地方創生推進課長

各課の総合計画策定プロジェクト員を中心に、基本的に一つ前の計画を振り返り、時代の流れと村の現状認識に基づき計画策定を念頭としている。背骨となる部分、重要なことは変わらず、今までの歩みを基に村づくりを継続していく考えである。

問 令和2年度から6年度を策定期間とする「第5次水上村総合計画実施計画」の進捗率は。

答 地方創生推進課長

令和2年度から5年度までの総計で264事業、計画事業費110億12万9千円に対し、概算事業費実績70億1,589万5千円で進捗率64%である。

問 「第6次水上村総合計画」で目指す本村の将来の姿を「基本構想」「基本計画」でどのように描き「コンセプト」についてのか。

「第6次水上村総合計画」で目指す本村の将来の姿を「基本構想」「基本計画」でどのように描き「コンセプト」についてのか。

答 地方創生推進課長

今後も厳しい予算編成が見込まれる中、特に「実施計画」については、進捗管理と事業効果の検証、見直しを行なっていく必要があると思うが。

問 今後、厳しい予算編成が見込まれる中、特に「実施計画」については、進捗管理と事業効果の検証、見直しを行なっていく必要があると思うが。

今後、厳しい予算編成が見込まれる中、特に「実施計画」については、進捗管理と事業効果の検証、見直しを行なっていく必要があると思うが。

答 地方創生推進課長

総合計画との関連性が最も高い「まち・ひと・しごと創生総合戦略」における基本目標、重要業績評価指数の結果を「実施計画」にフィードバックする形で効果検証体制の構築を検討していきたい。

総合計画との関連性が最も高い「まち・ひと・しごと創生総合戦略」における基本目標、重要業績評価指数の結果を「実施計画」にフィードバックする形で効果検証体制の構築を検討していきたい。

Q. 「市房ダム湖周辺整備計画」の 見直しは

**A. できる限り早い時期での策定
を検討したい**

問 平成25年度の「第2次市房ダム湖周辺整備計画」の策定から11年が経過し、来年はダム建設から65年を迎える。

答 地方創生推進課長

第2次計画の継承を念頭に、市房ダムの重要性を伝え、球磨川流域の安全確保に必要な重点事業計画として、できる限り早い時期での策定を検討したい。



Q. 防げるはずの子宮頸がんから女性を守るためには

A. 自らの健康への意識が高まる取り組みを続ける



小川 恵 議員

問 毎年約1万人以上が罹患し、約3千人の女性が亡くなる子宮頸がんは、近年では20代から40代の若い世代にも増えている。一次予防としての子宮頸がんワクチン接種の勧奨について村の見解は。

がんは、近年では20代から40代の若い世代にも増えている。一次予防としての子宮頸がんワクチン接種の勧奨について村の見解は。

答 保健福祉課長

副反応において、国内外からの報告や最新の知見により、安全性に懸念が認められないことから、国は積極的勧奨を再開している。しかし正確な情報が本人や保護者へ行き届いておらず、今後は住民全体に向けても、子宮頸がんやワクチン接種について分かりやすい周知を行い、ワクチン接種を勧めていきたい。

問 若い世代を含む、子宮頸がんの検診率を上げる取り組みは。

若い世代を含む、子宮頸がんの検診率を上げる取り組みは。

答 保健福祉課長

20代でも子宮頸がん発症の報告があることから、若い世代がもつと自分事と感じられるような情報の発信を行い、二次予防となる検診が早期発見・早期治療となる重要性をさらに伝えたい。

問 若い世代の受診率向上のために、人吉球磨管外でも無料もしくは償還払いで受診できないか。

若い世代の受診率向上のために、人吉球磨管外でも無料もしくは償還払いで受診できないか。

答 保健福祉課長

公平公正という行政の旨からもきちんと考え、まず課題の整理を行いたい。

問 死因第1位であるがんは世代、性別を問わず誰もがかかる可能性はある。文科省による学習指導要項にも、がんについて取り扱うところがあるが、学園のがん教育の現状は。

死因第1位であるがんは世代、性別を問わず誰もがかかる可能性もある。文科省による学習指導要項にも、がんについて取り扱うところがあるが、学園のがん教育の現状は。

答 保健福祉課長

保健体育で不適切な生活習慣、運動不足、偏った食生活などがそれらの要因であることを知り、検診などで早期発見・早期治療で回復することを学んでいる。

復することを学んでいる。

問 男性へのワクチン接種は咽頭がん、肛門がんなどから男性本人を守ると同時に、パートナーへの感染を防ぐ2つの意義をもつ。男性へのワクチン接種補助の考えは。

男性へのワクチン接種は咽頭がん、肛門がんなどから男性本人を守ると同時に、パートナーへの感染を防ぐ2つの意義をもつ。男性へのワクチン接種補助の考えは。

答 保健福祉課長

国は審議継続中であるため、本村においてすぐに始めることは考えていない。今後は国の動向を注視し、医師会とも情報交換を行っていく。

問 がん対策推進基本計画の全体目標に「だれ1人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す」とあるが、今後の本村の取り組みや考えは。

がん対策推進基本計画の全体目標に「だれ1人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す」とあるが、今後の本村の取り組みや考えは。

答 保健福祉課長

今後もしっかり予算を確保し、食生活・運動習慣の改善、健康意識の向上、ワクチン接種の勧奨など、行政・医療・各種団体と協力し、がん撲滅に取り組んでいきたい。



地方自治の基本を学ぶ

全国市町村国際文化アカデミー研修に初参加



全国の新人議員 120 名が参加

地方自治を支える人材育成がますます重要となる中、滋賀県にある全国市町村国際文化研修所(JIAM)では新人議員を対象に専門的な研修が毎年開催されている。

今回、11月18日(月)から20日(水)の3日間、「新人議員のための地方自治の基本」受講のため本村議会から初参加。全国の新人議員120名が研修に取り組んだ。

JIAM 学長の開校式でのお言葉で『一人で学んでいたのでは得られない学びがある』は、主体的に学ぼうという気持ちに強くさせられ意欲をかき立てられた。最新かつ先進的な講義では、これから求められる地方議会としての多くを学び、また、全国の新人議員のネットワークを今後の議員活動に活かしていきたい。

参加者：小川 恵

【講 義】

- ◆「地方自治制度の基本」野田 遊^{の だ ゆう}氏(同志社大学教授)
- ◆元議長が語る「住民から近くて遠い地方議会から近くて近い地方議会へ」
江上 隆行^{え が み たかゆき}氏(福津市議会元議長)
- ◆「地方議会と自治体財政」金崎 健太郎^{かなさき けんたろう}氏(武庫川女子大学教授)
- ◆「条例と政策の審査・立案」・条例演習 吉田 利宏^{よしだ としひろ}氏(元衆議院法制局参事)
- ◆「これからの地方議員に期待されていること」大山 礼子^{おおやま れいこ}氏(駒澤大学名誉教授)



旧岩野小学校はどう変わる？

人工光照明で水耕栽培



廃校を活用した「いちごの学校」(旧向田小学校外観)

11月22日(金)栃木県の一般社団法人那須烏山市観光協会が運営する、人工光型植物工場いちご園「いちごの学校」を視察した。ここでは、閉校となっている旧向田小学校の3階教室の一室が、人工光照明を使って水耕栽培する観光いちご園へと改修されており、廃校活用法としてはかなり斬新である。

イチゴの品種は「よつぼし」で、栽培が難しいとされる夏に温度や光を調整して栽培でき、市場にほとんど量が出ない夏イチゴを安定的に栽培するための研究施設になっている。



栽培施設を説明する千葉大学の嶋村先生

室内には高さ2.3m、幅3mの栽培ラックが6機、上下4段ポットに植えた1,000から1,500株の夏イチゴが所せましと並び、白色LEDに照らされていた。ポットの中身は土ではなく石綿(ロックウール)の培地で、そこにポンプで汲み上げた肥料入りの培養液が上段から下段に流れて循環する仕組みとなっており、土耕栽培と比べて水量が1/100とエコである。光合成を高めるための液化炭酸ガス装置、室内で飼育する黒マルハナバチを使った受粉、天敵昆虫(ミヤコカブリダニ)による害虫対策など、さながら総合化学による農業といった様相である。

このいちご園をモデルとして旧岩野小学校の利活用が進められていくこととなっており、実際に現地におもむき、千葉大学のしまむら先生(株)ハンモ代表取締役)に直接質疑を行ったことにより多くの疑問点が解消に至った。



面積効率の高い多段栽培



夏イチゴ「よつぼし」

今後は「水上村と(株)ハンモとの包括連携協定」に基づき、夏イチゴ、ワサビ、ハーブ類の栽培などが展開されることとなるが、いまだ研究事業の域を出ない面があることや、市場へ向けて実際の流通はどうかなど、どれだけの発展を見せるかは未知数である。効果を発揮するにはある程度の時間を要するだろうと想像する。

しかし、観光やSTEAM教育(理系の総合教育)の要素も含んでおり、高収益が期待できて人も呼べる「夢のある複合事業」としてポテンシャルは高い。マネジメントの手法にも左右されるだろうと考えるため、事業の進捗、効果、広報戦略など、今後も議会としてもしっかりと注目していきたい。



改修された旧理科室（南側）

物価高、農業経営を圧迫

認定農業者と議会で意見交換会



挨拶を行う認定農業者会長の幸野市雄氏

12月20日(金)、水上村認定農業者会と産業厚生常任委員会(委員長 杉野久志)との意見交換会が行われ、村の農業の現状と今後の課題について情報意見交換会が開催された。

内容については、産業振興課による事前のアンケートで最も関心の高かった「物価高騰について」「鳥獣害について」「補助金について」に絞られ、農業者からは様々な意見が出された。

今回の貴重なご意見を議会全体で共有し、農業の課題解決のため努力していきたい。
なお、主な意見については、以下のとおり。

①物価高騰について

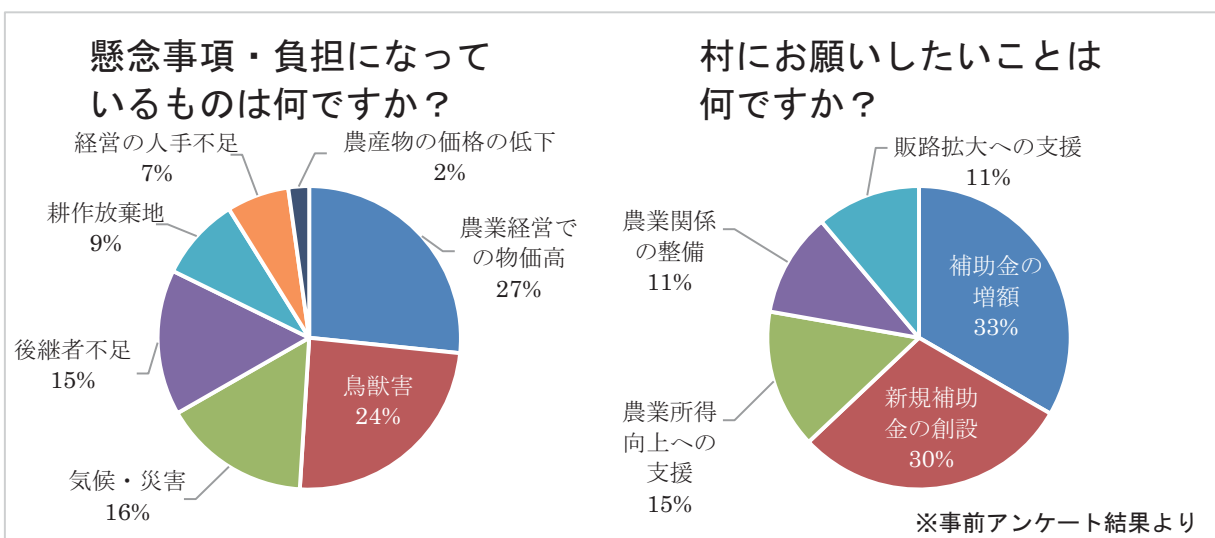
- ・飼料、資材、機械、燃料、牧草、子牛のミルク代など、あらゆる物価が高騰している。
- ・農畜産物価格が物価高に追いついていない。
- ・繁殖牛農家は、飼料などの物価高騰に子牛価格の下落が重なりもっとも苦しい時期。

②鳥獣被害について

- ・今まで被害を受けていなかった岩野地区にもイノシシ、シカが出るようになった。
- ・駆除頭数の増と猟師の確保を。

③補助金について

- ・機械高騰により更新したいが、できない悪循環になっている。
- ・機械利用組合に対しては個人とは別の補助政策を。(受託作業継続のため)
- ・後継者不足、高齢化により農地の維持が困難。



みずかみ議会だよりの評価は

県内唯一の挟み込み方式



パネリストとして水上村議会も登壇

11月6日(水)、熊本県町村議会議長会による「令和6年度広報コンクール表彰式及び町村議会広報研修会」がグランメッセ熊本で開催され、本村議会から広報委員4名が参加した。

議会だよりを一般広報への挟み込み方式としているのは、県内町村では本村議会だけであり、その独自性から荒嶽 晋委員長がパネリストとして登壇。メリット・デメリット等の説明を行った。

最新の分署機能をチェック

上球磨消防組合議会で視察研修

10月18日(金)、上球磨消防組合議会による議員視察研修が行われ、令和3年7月に開庁した有明広域消防本部長洲分署、令和5年9月に竣工した山鹿消防署東分署を視察した。

上球磨消防本部においても、以前から西分署建設の構想が引き続き議論されており、近隣の消防本部の動きや必要とされる分署機能、最新の設備などを把握しておく必要がある。(参加者：米本 宗徳)



有明広域消防本部長洲分署前にて

編集後記

山崎 隆浩

あけましておめでとうございます。今年のお正月は妻の実家がある福岡で過ごしました。家族親戚一同が集まり、新年の風物詩である箱根駅伝を観戦し、二年連続総合優勝を果たした青山学院の右胸あたりにある「水上村」のロゴが大きな話題となりました。復路に関しては、ゴールまでトップを独走、その後のインタビューや優勝報告会のテレビ映像では「水上村」が全国に発信され、SNSでは「人口2,000人の村に脚光」などトレンド入りしました。全国から注目を集めたことに満足せず、これから「水上村」効果をどのように活用し活性化につなげていくのかが重要になると改めて感じさせられたお正月でした。

も、読んでいただけたら幸いです。議会広報誌を目標として、広報委員一同努力してまいります。本年も宜しくお願いします。



広報特別委員会

委員長 荒嶽 晋
副委員長 山崎 隆浩
委員 小川 恵
委員 杉野 貴文